

交換留学レポート

留学先国・地域	中華人民共和国	留学先大学名	上海海洋大学
高知大学での所属	人文学部・国際社会コミュニケーション学科	留学先での所属	国際交流学部
留学期間	2017/9/4	～	2018/7/15

学習に関すること

1 学期は中国語を話せるようになるまで苦悩の毎日でした。先生が何を言っているのか分からずポカンとしてしまう自分が情けなく、クラスメイトが輝いて見え悩む日々。そこで私は分からないという自分を認めようと思う事にしました。それまでは、分からないことが恥ずかしいと感じ、周りと比べてばかりでしたが、その考え方を改める事にしました。分からなかったら勉強して覚えていけばいい、そう思う事で悩むことはなくなりました。まずは自分から食堂のおばちゃんや先生に話しかけるようにし、聞き取れないときには「分からないからもう一度教えて」と言うようにしました。それ以来周りの皆が助けてくれるようになりより勉強が楽しくなりました。結果、2 学期は一つ上のレベルのクラスで勉強できるようになり自分の自信にもなりました。クラスメイトと共に行った勉強会も自分にとって効果的であったと思います。また、上海海洋大学は日本人留学生が少なく、実際に 2 学期は私が唯一一人の日本人だったので、中国語、また英語を学ぶ環境としてはとても良いと思います。日本語を勉強している中国人学生も沢山いるのでお互いに高め合える仲間を作ることも出来ます。私は上海海洋大学に留学して本当に良かったです。

生活に関すること

留學生活が始まって間もない頃は日本との生活、習慣の違いに悩まされました。言葉も違う中、食事をする際の食事マナーには一番驚かされました。友人と食事に行った際衝撃的だったのは、骨付きの鶏肉の肉の部分を食べ終わるとその骨を机の上に直に置いていくのです。これには驚きました。食事が終わる頃には机の上が骨でいっぱいになっていました。また、口の中に食べ物が入っているのに話をする姿にも驚きました。しかし、一か月、二か月が過ぎるとそんなことなど気にならなくなり、一つの文化なんだと許容でできる自分がいました。また、慣れるまでに時間のかかったことは、トイレ利用時使用した紙を水洗で流すことが出来ないことでした。紙は個室内のごみ箱に捨てることが決まっていたのでした。一部ホテルやデパートを除いてはこの方法でできないとトイレを利用することができませんでした。初めは抵抗がありましたが、帰国する頃にはすっかり定着し、日本では逆にゴミ箱を探してしまう自分がいます。これらの事から、初めは驚くような習慣でも、時間が経つと受け入れることが出来、新たな習慣として自分自身に身に付くことを学びました。